

# 4年振りに「ぶんぐ博」

## 大阪 待ちわびたファンで賑わう 文協 待ちわびたファンで賑わう

大阪文具事務用品協同組合(金澤利治理事長)のぶんぐ博(オフィスフエ)は、「gonext」をテーマに、10月12日に天満橋のOMビルで4年振りに開催、新聞広告や地下鉄の車内吊り広告などを控えたことから、来場者は4年前の4832名から2888名と減少したが、フエを待ちわびていた文具ファンで賑わい、比較的ゆったりとした会場、最新の業界商品を見学した。

当日は午前9時40分よりオープンングセレモニーを行い、金澤理事長が「2019年以来、4年振りの開催となり喜んでいて。オフィスフエから始まったぶんぐ博は、昭和の時代から平成、令和と繋いで、今回で66回目の開催となる。その間、オイルショック、バブル崩壊、リーマンショック、震災など数々の苦難に直しながら、こうして66回にまで繋ぐことができるのは、各位の協力のおかげ。今回のサブタイトルとして「gonext」を謳っている。次の世代のユーザーフエを模索しながら、少しでも出展社の製品、サービスを提供、紹介できる一助になるよう



主催者、出展社、来賓らによる記念撮影

に、フエを進化させて次の時代のフエを作っていく所存で、引き続き協力を願いたい」と挨拶。

出展社を代表してL.I.H.I.T L.A.B.・田中宏和社長が「大阪文協は今年70周年という節目を迎え、5月には記念の祝賀会を開催し、来場者も招待を受けた。コロナ禍から4年近くが経過している。インバウンド客の舞い戻りなど明るい話題もあるが、物価高などで情勢も厳しくなっている。我々としてはできることから改善していくことが大事。販売店の力を借りながら、商品づくりすること」が急務だと思っている」と祝辞を述べた。

次に主催者、出展社、来賓らによるテープカットを行い、全員で恒例の記念撮影を行ってフエをスタートした。

会場には67社が出展。それぞれメイン商品を展示して来場者にアピールした。

今回も前回同様、組合員の得意先にゆくりと商品を見てもらうと、フエの告知を企業向けの招待状、後援名義の機関への案内、組合員店頭へのポスター掲示、8月に開催した文紙MESSAGE会場で配布した400枚のチケット等でのPRのみに止めた。

来場者も文具店の減少など、文具商品を見る機会が少ないことから、出展社の小間を丹念に訪れ、展示商品の見学や、説明を受けていた。

今回は毎回行っていたイベントがなかったことか、やや寂しさを感じたが、ショピングエリアでは23社のメーカーが市価より割安で商品を販売するなど人気を博し、来場者は久しぶりのフエを楽しんでいた。

メイン会場の体験コーナーでは、色彩検定、メナードフェイシャルサロン、透明ハンコTOMEIHA N、大阪エヴェッサ応援フース、消しごむはんこやAYK(あやこ)。ワークショップでは、スクラップブック、シヤチハタミニカレンダーづくり体験、あかしや水彩毛筆「彩の実演+販



多くの文具ファンが来場した会場



特別価格で商品を提供して喜ばれた。

午後2時から金澤理事長、佐野副理事長、前田オ

「リーテ」(ホームライクなデザインとワーク機能を両立したオフィス用チェア)、「pallio」(パロ) (ダイバーシティが進むワークシーンに対応する機能と、サステナビリティーに配慮した設計を兼ね備えたタスクチェア)、「OSFA (オスファ) (より多様なシーンを演出し、よりロングライフに使えるサステイナブルな可変型ソファ)、「fore moving panel」(フォーレムービングパネル) (高性能な吸音効果により、オープンエリアでの近接するミーティンググループ同士の会話環境を快適にする、音環境に配慮したキヤス

ター付きパネル)、「n.5 (エヌテンゴ) (コクヨが新たに開設した社員の自分らしい働き方・学び方・暮らし方に寄り添う多目的スペース)、「THE CAM PUS HALL」(CO RE「イ・キャンパスホール)、「ゴア」(コクヨの実験的なチャレンジや新しく生まれたモノ・コトを発信することで共感を生み出すためのコミュニケーションホール)、「FUJIFILM Creative Village」(2023年5月港区南青山に開設した施設で、コクヨが内装設計を担当)

「セキセイ」(セバルマグラック) (生活空間に溶け込みやすく無駄のないシンプルながらマグネット収納ラック)、「ゼブラ」(「ゼタン」(ノートに取り付けて携帯する新しいボールペン)、「パイロットコーポレイション」(「ザ・ドクターグリップ」(ドクターグリップのハイエンドモデル)、「いろつし」(万年筆に搭載されているペン先がついた新しいつけペンタイプの筆記具)、「ブラス」(「フィットカットカー」(大型タイプ)、「渡り・ハンドル共に一回り大きな大型タイプ)、「ヴィチェンタ」(オフィスと未来をつなぐ木材利用プロジェクトのオフィス用家具)、「オレンズA

ンデュアルグリップタイプ(学生に向けた新開発の「自動芯出し機構」搭載のシャープペンシル)、「P entelAin」(替芯に期待される全ての項目で、高次元でバランスのとれたシャープペン替芯)、「三菱鉛筆」(「ジェットストリーム海洋プラスチックチック」(軸材に海洋プラスチックとみとコンタクトレンズ空ケースの再生樹脂を独自配合したボールペン)、「ユニボール」(「ユニボール」(ユニボールシリーズの特徴を引き継ぎつつ、携帯性を持たせた新しい短寸、太軸モデル)、「クルトカ」(KSモデル) (さらに進化を遂げたクルトカの新スタンダードモデル)

「ユーザーも来場すると思うが、その辺の雰囲気を見て来年のアプローチを考えたい」とした。

て替えを計画、新社屋は2023年4月に竣工。ウィズコロナやDXに対応した知的生産をサポートするフイオオフィスとして機能している。

建物の特徴は①熊本城周辺の緑豊かな景観と呼吸する植栽を配置したファサード②大通りに大きく開いた展示可能な大階段により近隣に事業活動を表示③調光調色照明と輻射空調を連動制御したウェルネスオフィスの実現④歴史を掲示するギャラリーベースの確保や、自社商品の展示スペースをオフィスに配置する事で、ライフオフィスを表現など。

また、第36回日経ニューオフィス賞近畿ブロック表彰式は、9月27日午後2時から天満橋の大坂キャスルホテルで開催、推進賞4社、奨励賞8社を表彰した。

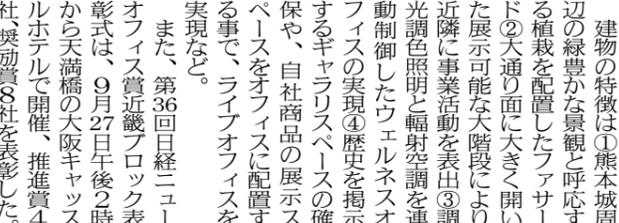
まず、金澤理事長が「今回のぶんぐ博をベースに、来年も「gonext」に組み立てていきたい。今回は運営面から試算し直し、広告宣伝費やイベントなどの経費を抑えたことで動員はあえて求めなかった。文紙MESSAGEで400枚ほどチケットを配布したが、今回の来場者はそれを見て景品を付けていたが、今回はそれもなかったが、影響はなかった」と説明。

また、前田実行委員長は「昨今販売系の展示会が多いが、ぶんぐ博は来場者に来て、見て、触ってもらえる趣旨の展示会で、この趣旨は大きく変わった。コロナ前と比べると出展社数も減少しているが、メーカーやフースによって差はあると思うが、来場者一人ひとりと会話しているように感じた。全盛期のごちゃごちゃとした感じはな

株式会社レイメイ藤井  
日経ニューオフィス賞  
奨励賞を受賞  
レイメイ藤井  
熊本本店ビル

(藤井章生社長、熊本市)の熊本本店ビルが、日経ニューオフィス賞九州・沖縄ブロックで奨励賞を受賞した。

同社は創立130周年記念事業として熊本本店の建



奨励賞を受賞したレイメイ藤井の熊本本店

KOKUYO

貼るって、こんなに変わる。

# GLOO